協議会だより　青年技術士協議会

第 33 回技術士全国大会（第 6 分科会）参加＆ CRC 横浜コンピュータセンター見学
研究会 1 （滝川市における中心市街地再生について考えよう）共催

1．第 33 回技術士全国大会（第 6 分科会･青年技術士：知と志の融合）に参加して

9 月 5 日～ 6 日の 2 日間､東京で第 33 回技術士全国大会が開催され、北海道青年技術士協議会からは会長以下総勢 6 名（1 名は横浜在住）が参加しました。

また、青年技術士協議会では「ニッポン・テクノツーリズム構想」を進めているところですが、この具体化第一弾として「CRC 横浜コンピュータセンター」見学ツアーを実施しました。

以下にこれら青年部の行事についてまとめました。

○CRC 横浜コンピュータセンター見学

コンピュータセンターとは簡単に言ってしまうと企業のコンピュータやデータを堅牢な建物の中に預かるとともに、各企業に応じたコンサルティングからシステム運用までを請け負うサービスです。

企業活動をコンピュータに全面的に依存している現代にあって、自然災害・人的災害等によるシステムダウン、データ消失の回避等は企業の存亡に関わる重要なリスクの一つです。

横浜コンピュータセンターはこれらのリスクを回避するため、水道・電気といったライフラインを始め随所に 2 重以上の徹底したバックアップが用意されています。

見学では停電があったとしても 3 日以上は持ちこたえられるという地下発電システムや UPS､大型コンピュータや各種サーバーが格納されているコンピュータルームなどを案内していただきました。

セキュリティーも万全で、認証がなければ隣の部屋に行くことも前の部屋に戻ることもできないという徹底ぶり。まさに「電子の要塞」でした。

○青年委員会二次会「活とんパーティ」

本部主催の前夜祭終了後、場所を大会会場近くの活豚料理「inton」に移し、青年部の交流会が開催されました。

本州の技術士は民需で食べている人が多いそうで、そのせいか自己アピールの積極性と巧みさに圧倒されました。多くの方々とお話しましたが、どの方も強烈で深く印象に残っています。

我々もコミュニケーションスキルの向上を目指した活動を本格化しなければ、と決意を新たにさせられる交流会でした。

○第 6 分科会（青年技術士）「知と志の融合」

最初に発表した原田氏は元品川区長。品川区で実施した様々な政策を織り交ぜながら自分の人生におけるブレイクスルーについての発表がありました。また、韓国技術士会の朴氏からは韓国の青年技術士

の活動内容が報告されました。

小さなブレイクスルーを自分の中で積み上げていくことの重要性を再認識した分科会でした。

なお、分科会会場には全国の青年技術士の活動を紹介するポスターが掲示されました。

（文責：青年技術士協議会幹事　田中　真也）

2．CRC横浜コンピュータセンター見学を主催して

第 33 回技術士全国大会にあわせて、9 月 5 日に「CRC 横浜コンピュータセンター」を見学していただきました。

多くの方にとって「CRC 横浜コンピュータセンター」のようなデータセンターはあまり馴染みの無いものだったと思います。

インターネットに代表される情報通信ネットワークのグローバルな進展は､現代社会に､数々のメリットもたらしましたが、同時に、今までとは違った形のリスクも生み出しました。

インターネットに接続することが、世界的な双方向ネットワークに接続していることを意識しなくてはなりませんし、情報管理やコンプライアンスをきちんとマネジメントできない企業は、社会の信用を失い、企業崩壊を招くような致命的な事態に陥りかねません。

ここ数年、個人情報保護法、e-文書法、BCP（事業継続計画）、J-SOX と企業の情報資産を取り巻く環境が、めまぐるしく変化しています。

ネットワーク社会における企業活動は、今までとは異なる形で存在する情報資産を適切に管理する必要があります。

金融資産は、その運用を銀行などの金融機関に預けるように、今後は、情報資産を、データセンターにアウトソーシングすることが企業におけるリスク低減の有効な選択肢になると考えます。

私どもは、東京(大手町、渋谷)、横浜、神戸に立地する 4 つのデータセンターを運営しています。

天災・人災に対する万全のファシリティと、20 年に及ぶ運用実績で蓄積したノウハウ、最新の技術をもったシステムオペレーターが、皆様からお預かりした大切なシステムを 24 時間 365 日ノンストップで安全・確実に運用・管理しています。

今回、ご見学いただいた、横浜コンピュータセンターは、神戸コンピュータセンターとともに、郊外型データセンターとして、東西センター間で戦略型アウトソーシングやディザスタリカバリ（DR）の拠点にもご利用いただいています。

横浜と神戸の両センターの連携により、情報システムのバックアップセンターとして、ピンポイント災害から広域災害まで幅広く対応可能で、国内のみならずアメリカやフランスなど海外の大手企業のディザスタリカバリ拠点としても利用されています。

また、横浜コンピュータセンターは、国内でいち早くコンサルティングからシステム運用までのアウトソーシングビジネスを開始したデータセンターです。

国内で初めて旧通産省の「電子計算機システム安全対策基準」A基準適合認定を取得、さらに「情報処理サービス業情報システム安全対策事業所」認定を取得し、1999 年、当データセンターのお客様と共同で ISO 14001」を、2002 年 3 月には、「ISMS」制度の認証を取得し、人と技術と環境を融合したデータセンターへと日々進化を遂げています。

今回の見学では、「CRC 横浜コンピュータセンター」ポリシーとそれを実現するデータセンター設備、サービスの紹介および、データセンターの選定のポイントをビデオ上映と施設見学の約 2 時間スケジュールで、紹介させていただきました。

（文責：青年技術士協議会幹事　長尾　高嗣）

3．研究会１（滝川市における中心市街地再生について考えよう）

１）はじめに

この研修会は、北海道滝川工業高等学校土木科の高校生が特別授業の一環として、滝川市における中心市街地の現状と課題を把握し、その再生について考え、自分の意見を伝達する力を養うことを目的として行ったものです。

研修の実施にあたり、滝川市役所、滝川商工会議所、北海道青年技術士協議会の協力を得ながら実施しました。

また、一般市民にも参加してもらえるように呼びかけ、高校生の意見を今後のまちづくりに活かしてもらえるように行いました。

２）研修内容と日程・内容

研修会は次のような日程で行いました。

日　時：平成 18 年 9 月 11 日(月)11：00～16：30
場　所：滝川市役所大会議室
主　催：北海道滝川工業高等学校
協　力：滝川市役所(元気タウン推進室)、滝川商工会議所、北海道青年技術士協議会
内　容：

①　開会式（11：00～11：10）

【開会式で挨拶する椿谷会長】

②　中心市街地再生への取り組み(11：10～12：30)

・滝川市役所職員と滝川商工会議所職員から中心市街地の現状と課題及び再生への取り組みについて授業をしてもらいました。

③　タウン・ウォッチング（12：30～14：00）

・高校生が中心市街地を歩き、決められたエリア内で昼食をとったり、街角インタビュー等を行いながら市街地の調査を行いました。

【中心市街地の授業をする商工会議所職員】

【中心市街地で市民にインタビューする生徒】

④　ドキドキ発表準備（14：00～14：30）

・タウン・ウォッチングの結果をまとめ、発表の準備を行いました。

【ドキドキ発表準備の生徒を指導する教員】

⑤　ドキドキ発表（14：30～14：55）

・高校生がタウン・ウォッチング結果を発表し、参加者、協力者、住民にも聞いてもらいました。

【ドキドキ発表風景】

⑥　イロイロ研究（15：00～15：40）

・北海道青年技術士協議会の専門家が全国各地の様々な中心市街地再生事例を紹介しました。

⑦　ワクワク意見交換（15：40～16：20）

・滝川工業高校の生徒、教員、滝川市役所職員、滝川商工会議所、一般滝川市民による意見交換を実施する。北海道青年技術士協議会からは、専門家としてのアドバイスをもらいました。

【意見交換で自分の意見を述べる生徒】

⑧　閉会式（16：20～16：30）

3）高校生への事前指導

より実りのある研修会とするため、高校生に対してまちづくりの重要性や協力してくれる団体についての詳細説明、タウン•ウォッチングやドキドキ発表の事前準備を学校の授業時間を使用して行いました。

主に次のようなことを重点的に指導しました。

ⅰ）歓楽街を含まない範囲をウオッチングエリアとして設定し、エリア内にある施設をインターネットを使って調べ、当日の見学コースを決めておくこと。

ⅱ）エリア内にある昼食を食べる場所を事前に調べて決定し、当日は昼食の講評を行いながら『滝川市の看板になる食とは』について考えること。

ⅲ）中心市街地でインタビューを行って一般市民がどのようなことを感じ、考えているのかを知ること。

ⅳ）自分たちは普段どこで買い物するか（服等色々な品物）と何故、その店で購入するのかを発表し、現代の高校生の思考として情報を提供すること。

ⅴ）中心市街地再生の授業、タウン•ウォッチング、自分たちの買い物思考をまとめ、ドキドキ発表のときに「まちづくりへの提言」として発表すること。

4）当日の様子

高校生は中心市街地の授業で学んだことや事前準備で得た情報を基に市街地調査を行い、「年齢に関係なく楽しめる施設やまちづくりが必要」、「意見や若い人が就職できる場所を増やすべき」などが高校生の意見として提案されました。

イロイロ研究では青年技術士協議会の幹事が、本地域の周辺にある空知旧産炭地域の事例を取り上げ、中心市街地の果たすべき役割等について助言しました。

意見交換会では、参加生徒や教員、各協力団体からまちづくりに対する要望や意見が出されました。

青年技術士協議会からは出された意見に対する講評やまちづくりに必要なアドバイスが行われました。

5）おわりに

今回は、北海道滝川工業高等学校が〝まちづくりの研修会〟として主催し、北海道青年技術士協議会には〝研究会１〟として共催（協力）して頂きました。

今後は、この成果を大事にしながら、具体的な再生事業として発展させていきたいと考えています。

（文責：滝川工業高等学校土木科　川村　　茂）